

特集

紛らわしい相互貸借－書誌事項の確認

事例からみる不備のある書誌事項

会誌編集部

1. はじめに

相互貸借をおこなう際には、正確な書誌事項を確認する必要がある。不備があるまま依頼すると謝絶となるばかりか、相手館にも多大な負担をかけてしまう。可能な限り正確な書誌事項を確認して依頼しなければならない。

今回は、近畿病院図書室協議会に加盟している病院図書室の協力を得て、相互貸借をおこなう際に、正確な書誌事項を確認することに苦勞をしたいくつかの事例を紹介してもらうことができた。

下記にその事例を紹介する。

2. 巻号, ページ数, 発行年の不備

巻数, 号数, ページ数, 発行年などに不備がある場合は、そのすべてにわたって不備があることは、比較的少なく、そのうちのいずれかひとつに不備があることが多い。

<巻数, 発行年の不備>

① Monogr Allergy 1992;3:108-29	(誤)
↓	
Monogr Allergy 1992;30:108-29	(正)
② J Appl Physiol 1990;49:856-62	(誤)
↓	
J Appl Physiol 1980;49:856-62	(正)

・雑誌所在目録で所蔵館を調査する際には、必ず巻数と発行年を照合する必要がある。巻数や発行年に不備がある場合は、この段階で見ることができるからである。この場合は、巻数・発行年のどちらともが不備であるこ

とは比較的少なく、どちらか一方に不備があるケースが多い。

<ページ数の不備>

③糖尿病 36 (Suppl 1) :202,1993	(誤)
↓	
糖尿病 36 (Suppl 1) :220,1993	(正)
④腎と透析 30:37-41,1991	(誤)
↓	
腎と透析 30:521-525,1991	(正)
⑤JAMA 1995;273:421-8	(誤)
↓	
JAMA 1995;273:1421-8	(正)

・ページ数の不備は、数字が前後に入れかわっていたり、ぬけ落ちていたりするケースが多い。また、④のように、号数の記載がない場合で、通巻でページ数が表示（通しページ）されていない場合がある。ページ数が小さい場合はその可能性もあり注意する必要がある。

巻数, 号数, ページ数, 発行年などは、雑誌名や、著者名とは異なり、数字で表示されているため、ベテランの図書館員でもその不備を発見することは難しい。したがって、下記の点に注意をしながら、文献の確認をおこなう必要があるだろう。

- 1) 数字が一部抜ぬけ落ちてはいないか。
 - 2) 数字が前後に入れ代わってはいないか。
 - 3) 異なった数字で記載されてはいないか。
- 特に誤りやすい数字には注意する（例え

ば0と6や3と8など)

3. 誌名

1) 異誌名

雑誌には複数の誌名をもつ雑誌がある。したがって、所在目録に記載されている誌名と利用者から依頼を受けた誌名が異なる場合がある。また、書誌によって誌名の採用の基準が異なるため、同一誌であっても異なった誌名で表示されていることがある。

<書誌, 所在目録によって異なった誌名を採用している場合>

⑥輸液・栄養ジャーナル JJPEN輸液・栄養ジャーナル	(医中誌) (所在目録)
⑦運動生理 1992 理学療法のための運動生理 1992	(医中誌) (所在目録)
⑧Gastroenterological Endoscopy 日本消化器内視鏡学会雑誌	(医中誌) (学術雑誌総合目録)

- ・同一誌であっても⑥⑦は、医中誌と所在目録で異なった誌名を採用しているケース。また⑧は医中誌と学術雑誌総合目録が、異なった誌名を採用しているケース。

<英文誌名>

⑨Progress of Digestive Endoscopy 消化器内視鏡の進歩
⑩Journal of Clinical Anesthesia 臨床麻酔

- ・国内誌の場合、しばしば英文誌名で依頼を受けることがある。洋雑誌の目録でどうしても所在が確認できない場合は、国内誌を疑ってみる必要がある。

2) 誌名変更

医学雑誌はしばしば誌名変更される場合があり、注意が必要である。特に誌名変更がおこなわれた年とその前後の年では、目録の記載もまちまちになりやすい。

<誌名変更>

⑪慢性疼痛研究会誌 1994	(誤)
↓	
慢性疼痛 1994	(正)
⑫American Review of Respiratory Disease 1996	(誤)
↓	
American Journal of Respiratory Critical Care medicine 1996	(正)

- ・⑪は1993年より『慢性疼痛研究会誌』から『慢性疼痛』に誌名変更されている。
- ・⑫の『American Review of Respiratory Disease』は94年から『American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine』に誌名変更されている。

3) 略誌名

医学雑誌は略誌名で記載されることが多い。紛らわしい雑誌には注意が必要である。

<略誌名>

⑬ J. Hepatol 1990:11:49-53	(誤)
↓	
Hepatol 1990:11:49-53	(正)
⑭ 日関外誌 14(2):151-160 1990	(誤)
↓	
日リウマチ関節外会誌 14(2):151-160 1990	(正)

- ・⑬は、誤ってJ. (Journal)が、記載されていたケース。Journal(J)、American (Am.)などが誤って記載されていたり、ぬけ落ちていることがよくある。和雑誌では、日本(日)や臨床(臨)などに注意する。
- ・⑭の「日関外誌」から推測できる完全誌名は“日本関節外科学会雑誌?”であろう。しかし、このような誌名の雑誌は存在しない。雑誌の柱には「日関外会誌」とあり、発行所が略誌名を指定しているケースである。こういった場合は、医中誌CD-ROMで著者名検索をしてみるよい。該当する文献を見つけ出すことができる。見つけ出すことができないにしても手がかりとなる情報を得ることができるはずである。著者名検索で、該当する文献が見つけ出せない場合は、

論題から推測してキーワード検索を試みることも必要である。

4. その他の事例

その他、特殊な事例について下記に紹介する。

<データベース入力ミス>

⑤医中誌CD-ROM出力例
#000001 95192050
実地医家のための服薬指導 (1) 横紋筋融解症
堀美智子(帝京大薬)
日本臨床学会雑誌 41巻 1号 Page89-91 (1995.3)
04P 3
横紋筋融解症,薬物療法
正しい書誌事項
中外医薬48(3)p.89-91 (1995)

- ・ 医中誌CD-ROMで検索すると、上記のように出力されるが、実際は誌名、巻号が誤っている。手書きや、論文の末尾に掲載されている参考(引用)文献と比べるとかなり正確な情報ではあるが、残念ながら完全とはいえないようである。
- ・ 医中誌CD-ROMで書誌事項の不備を発見した場合は、医学中央雑誌刊行会に連絡をすることを忘れないでほしい。連絡をすることによって、正しいデータに訂正される。

<雑誌校正ミス>

⑥精神科治療学 9(10):1113-1120 1994
↓
精神科治療学 9(9):1113-1120 1994 【図1】参照

- ・ 図1のように、同一雑誌の同じ年度に、ページ数が重複している。

5. おわりに

どうしても、正確な書誌事項が確認できない場合は、論題や著者名は大きな手がかりとなる。医中誌やMEDLINEのCD-ROMなどで、著者名検索をして該当する文献を見つけ出すことができる。著者名からではヒットしない場合は、論題からキーワード検索を試みると

よい。ヒットしない場合でも、検索した文献リストの中で図書室に所蔵のある文献の参考文献などに、求める書誌事項が掲載されていることもあるからである。

今回、紹介した事例は、ごく一部にすぎないだろうが、これらの事例を参考に、今後の相互貸借業務に少しでも活かしていただけたら幸いである。

また、ご多忙の中、調査にご協力いただきました病院図書室に心から感謝いたします。事例を紹介していただいた病院は次の通りです。

大阪厚生年金病院／大阪逋信病院／関西労災病院／済生会泉尾病院／西宮市立中央病院／西淀病院／日生病院／阪和記念会館／三菱京都病院

Vol.9 No.9 Sep. 1994

精神科治療学

Japanese Journal of Psychiatric Treatment

1994.9.29

■特集 ソーシャルスキルズ・トレーニング(SST) I

特集にあたって	栗田 広	1061	
理論とその展開—総論—	宮内 謙	1063	
分裂症患者への適用	田中洋子	1071	
精神科患者家族のスキル学習—認知行動療法的 SST の実例—	前田ケイ	1080	
自閉症児・者への適用	高木加子	1087	
■研究報告			
インターフェロン-α 使用中に生じた精神障害—C 型慢性肝炎の症例の検討から—	堀川真史, 山崎友子, 大和 央伸	1095	
精神分裂症の精神療法の一つ面—「身体着型着体群」への治療的関与の方法について—	原田誠	1105	
■症例報告			
子宮全摘手術後、重度の心的危機状態に陥った—中年女性の自己再生過程—	箕 俣夫	1113	
protireline の有効性が示された視床性痴呆の 1 例	北迫周郎, 松原 正, 洲崎 寛	1122	
■私の臨床経験			
精神分裂症患者のいる施設—その両身体性に注目して—	杉林 健	1127	
■資料			
総合病院精神科における紹介入院患者の調査	永瀧文博, 長友医師, 下島三三仙	1132	
■述 評			
(治療実習) 分裂病治療の経験			
—安定しない慢性病型について—	星野 弘	1141	
(ケースカンファランス) 神経性無食眠症回復後の同一性障害をもつ高校3年生: client centered case consultation から	若川邦広, 橋本元寿, 守屋直樹	1153	
(因脱 EEG) 側頭部脱波と小離散の発生後の推定	松浦雅人, 大久保善朗, 寺崎大伴徳	1161	
(卒業教育) トランスミッターと精神疾患—最近の進歩(8)			
アミノ酸とてんかん	仙波純一, 藤 道男	1166	
(海外文献ジャーナルクラブ) (精神薬理学)			
精神分裂症の維持療法における投与量の減量	箕 俣夫, 上島国村	1172	
次号・近刊予告	1176	発刊主旨, 論文公募のお知らせ	1178
投稿規定	1179	編集後記	1180

星 和 書 店

Vol.9 No.10 Oct. 1994

精神科治療学

Japanese Journal of Psychiatric Treatment

1994.10.27

■特集 ソーシャルスキルズ・トレーニング(SST) II

精神分裂症患者への適用	佐々木和慶	1081	
L.D(学習障害)児への適用	上野一彦, 名島斉子	1089	
精神生理学的視点からみた SST—分裂症における脳機能の可塑性と精神科治療の有効性—			
不安症状への適用	福田正人, 畑 哲信, 平松謙一信	1095	
不安症状への適用	杉山穂彦	1105	
■研究報告			
睡眠相違退症候群の臨床像と治療効果に関する検討	相原保一, 森本 清, 山口研司徳	1113	
慢性の精神障害に伴う多岐不整合の概観について			
—多岐不整合行動によるスクリーニング調査を中心として—	不庭野誠一	1121	
■症例報告			
7歳時の発症が疑われ、昏迷状態に陥り ECT が有効した精神分裂症の 1 例			
H, 受容体拮抗薬 nizatidine によると思われる幻聴および幻視の 1 例	久賀谷亮, 石田百合, 日笠 哲徳	1131	
■私の臨床経験			
脳内相違退症候群 SM-10500(天然型インターフェロン-α 誘発性製剤)投与中に精神症状を 呈した C 型慢性活動性肝炎の 1 例	矢野善明, 鈴木裕徳, 白浜 健徳	1139	
末期癌のケアを行なった閉鎖病棟入院患者の 1 症例	長木洋子	1144	
遅性症候群の診断基準および早期発見・早期診断についての提言	伏元勇治	1151	
■述 評			
産褥期にみられる睡眠・覚醒リズムの障害について	高山三雄, 河田達治郎, 猪田正義徳	1157	
H, 受容体拮抗薬 nizatidine によると思われる幻聴および幻視の 1 例	小川 里, 三田建雄, 中井 隆徳	1162	
■述 評			
(ケースカンファランス) 予後良好と思われる若年発症「分裂症」			
(因脱 MRI) 脳室拡大と MRI	尾崎公彦, 鈴木國文, 村上瑞彦徳	1167	
(卒業教育) トランスミッターと精神疾患—最近の進歩(9)	秀野武彦	1177	
ステロイドと精神疾患	吉川武男, 藤 道男	1183	
(海外文献ジャーナルクラブ) (老年精神医学)			
老年期の患者を抱える家族の臨床への対応法と課題	松田 隆, 栗田 広	1191	
次号・近刊予告	1196	発刊主旨, 論文公募のお知らせ	1198
投稿規定	1199	編集後記	1200

星 和 書 店